
宮崎県埋蔵文化財センター一年報



2024

序

本書は、宮崎県埋蔵文化財センターの概要と令和5年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

当センターは、昭和57（1982）年10月、宮崎市神宮の地に宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして発足して以来、国・県・西日本高速道路株式会社等の各種開発事業に伴う発掘調査の実施や未指定の重要遺跡の分布調査からその保護に向けた取り組み、発掘調査に伴って出土した遺物の整理、保管を行ってきました。

さらに、テーマ展示や出前展示、報告会等を開催し、県民の皆様の郷土理解に役立てるなど、埋蔵文化財の保護と活用、教育普及活動に取り組んでいるところです。

令和5年度は、新富スマートIC（仮称）建設、五ヶ瀬川・大瀬川適正分派事業に伴う2遺跡の発掘調査を実施しました。また、令和4年度に発掘調査を終了した3遺跡の整理作業を行い、報告書を刊行しました。

このうち、五ヶ瀬川・大瀬川適正分派事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（田宮遺跡）において、11月に開催した現地説明会では、多くの方に現地を見ていただき、調査の成果を広く還元することができました。

教育普及事業は、移動展示会を高原町、木城町、西都市の3か所で開催し、置県140年記念イベントとして県庁周辺のまちあるきや講演会を開催しました。例年開催する施設公開や埋文講座においても、最新の成果を取り入れ、埋蔵文化財への理解の一助となるよう努めております。

当センターは今後も職員が一丸となって業務に邁進してまいりますので、関係各位の御理解と御協力をお願いいたします。

令和6年5月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 飯田 博之

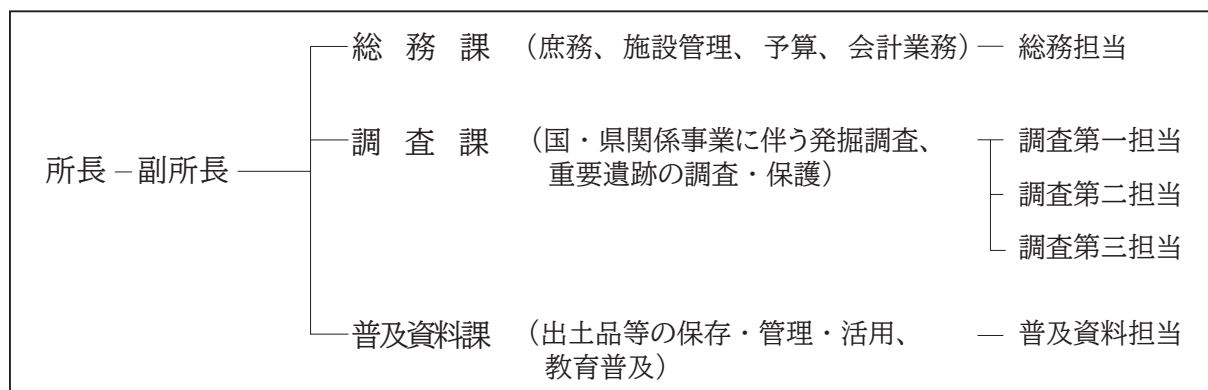
目 次

I	組織・施設	1
1	組織	1
2	施設	2
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	令和5年度の活動状況	5
1	埋蔵文化財記録保存のための発掘調査	
(1)	発掘調査	5
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	5
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	5
(4)	近代宮崎の出発点 西南戦争関連遺跡調査・活用事業（文化庁補助事業）	6
(5)	保存処理	7
(6)	収蔵整理	7
2	教育普及活動	7
(1)	移動展示会「ふるさとの遺跡再発見」（文化庁補助事業）	8
(2)	埋文講座	9
(3)	埋文センター施設公開・体験講座	9
(4)	遺跡発掘成果展2023・埋文最新情報	9
(5)	分館テーマ展示	10
(6)	出前展示	10
(7)	出前講座	10
(8)	現地説明会・インターンシップ・職場体験の受け入れ	12
(9)	見学・研修等で分館を訪れた団体	12
(10)	資料等の提供	13
(11)	職員派遣	16
(12)	埋蔵文化財担当専門職員研修会	17
(13)	広報出版物	17
(14)	研究紀要	17
(15)	ホームページ・SNS	18
(16)	置県140年記念イベント	18
3	会議・職員研修	18
(1)	各種会議等への参加	18
(2)	共同研究への参加	19
(3)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	19
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	20

I 組織・施設

1 組織

(令和6年4月1日現在)



所 長	飯田 博之	○調査第二担当 (担当リーダー)	
副 所 長	瀬之口 博行	副 主 幹	甲斐 貴充
		(高速道対策局・併)	
<u>総 務 課</u>		主 査	守部 丘大
(兼) 課 長	瀬之口 博行	(高速道対策局・併)	
○総務担当 (担当リーダー)		主 査	川嶋 信平
主 幹	原田 佳奈子	(高速道対策局・併)	
専 門 主 幹	加塩 美昭	主 査	小川 雄太郎
主 事	米良 ふたば	主任 主 事	加藤 真理子
主 事	河野 由芽	主任 主 事	留野 優兵
(会計年度任用職員)			
業務支援員	永野 光希子	○調査第三担当 (担当リーダー)	
		主 幹	堀田 孝博
<u>調 査 課</u>		専 門 主 幹	谷口 武範
課 長	松林 豊樹	主 査	中島 寛
		主 査	上野 哲矢
○調査第一担当 (担当リーダー)		<u>普及資料課</u>	
主 幹	和田 理啓	課 長	松田 清孝
主 査	藤木 聡	○普及資料担当 (担当リーダー)	
主 査	小吹 雅史	副 主 幹	平井 祥蔵
主 査	小山 輝晃	主 査	筒井 克彦
主 査	木村 哲弥	主 査	佐土瀬 英嗣
		(会計年度任用職員)	
		埋蔵文化財整理専門員	貴嶋 活実
		埋蔵文化財整理作業員	松羅 紀子

2 施設

(1) 本館 (宮崎市佐土原町下那珂 4019)

本館 2,656.50 m²

① 管理棟・調査研究棟 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建) 1,745.99 m²

事務室	57.76 m ²
所長室	19.86 m ²
情報処理室	33.17 m ²
会議室	78.52 m ²
休憩室	78.52 m ²
調査研究室	248.55 m ²
復元整理室	293.44 m ²
一次処理室	96.81 m ²
図面整理室	61.62 m ²
写場	64.20 m ²
暗室	12.65 m ²
一次保管室 (2層)	188.00 m ²
図書室 (2層)	193.88 m ²
荷捌室	43.01 m ²
その他	276.00 m ²

② 整理作業棟 (収蔵庫) (鉄骨造) 216.76 m²

③ 収蔵庫棟 (鉄骨造) 693.75 m²

(2) 分館 (宮崎市神宮 2丁目 4-4)

分館 (鉄筋コンクリート造 2階建) 1,652.38 m²

1階 877.58 m²

一次処理室	121.20 m ²
復元整理室	148.30 m ²
保存処理室	49.30 m ²
	(鉄器 22.70 m ²)
	(木器 26.60 m ²)
研修室	143.20 m ²
事務室	41.80 m ²
展示室	150.00 m ²
器材庫	11.00 m ²
エントランスホール他	212.78 m ²

2階 774.80 m²

写場・暗室	49.30 m ²
写真保管室	35.10 m ²
図面保管室	53.10 m ²
収蔵整理室	19.30 m ²
収蔵室	564.00 m ²
特別収蔵室	54.00 m ²

Ⅱ 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事 項
1980	昭 55	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案
1981	56	基本設計を実施
1982	57. 1. 9 7.29 10. 2	起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮 2 丁目 4-4 に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員 2 名（岩永哲夫、谷口武範）、兼務職員 8 名、嘱託 2 名発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」 （講師：国立民族学博物館教授 佐々木高明）
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を 3 名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山護転出、菅付和樹転入）
1985	60. 11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員 7 名になる。 毎月第 4 土曜日の写真会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第 1 集「陣内第 2 遺跡、蓮ヶ池横穴墓群 - 遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第 2 集「下那珂貝塚」刊行。 センター長長友巖発令。本務職員 1 名（菅付和樹）、兼務職員 9 名となる。
1989	平 1. 4. 1	センター長石井祥博発令。本務職員 1 名（永友良典）、兼務職員 11 名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第 3 集「下北方古墳 - 遺物編」刊行。 兼務職員 13 名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第 4 集「下弓田遺跡 - 資料編 1」刊行。 センター長木幡文夫発令。設備充実の一環として、軟 X 線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設 10 周年記念企画展「宮崎の埋文情報展' 82 ～ ' 91」を開催する。 脱塩装置、赤外線 TV カメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9.15	センター長後藤健志発令。本務職員 1 名（長津宗重）、兼務職員 15 名となる。 空調設備増設
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1.29 2.16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成 屋根防水工事完了 センター長関屋清志発令。本務職員 1 名（長津宗重）、兼務職員 24 名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係（第二係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員 37 名、嘱託 1 名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島 2 丁目 11-25）を設置し、調査第一係（東九州自動車道担当）を置く。
1997	9. 3.17 4. 1	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄 4777-2）に移転する。 職員 37 名、嘱託 7 名となる。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員 39 名、嘱託 8 名となる。
1999	11. 4. 1	職員 42 名、嘱託 8 名となる。
2000	12. 1.20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分館とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員 52 名、非常勤職員 12 名となる。分館（研修室、事務室、図面保管室、写真保管室）改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員 59 名、非常勤職員 16 名となる。 調査第一課調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員 63 名、非常勤職員 17 名となる。

西暦	年月日	事 項
2003	15. 4. 1	職員 64 名、非常勤職員 15 名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮園淳一発令。職員 62 名（うち任期付き職員 13 名）、非常勤職員 12 名となる。 収蔵庫用に旧籾検定工場を農政企画課から所管換え。
2005	17. 3. 8 4. 1 8.18 11. 6	収蔵第一期工事完成。 職員 61 名（うち任期付き職員 19 名）、非常勤職員 9 名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査第一課整理棟の設置。（東畦原整理作業棟撤去に伴い貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員 64 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 8 名となる。
2007	19. 4. 1	職員 64 名（うち任期付き職員 19 名）、非常勤職員 3 名となる。
2008	20. 4. 1	所長福永展幸発令。職員 61 名（うち任期付き職員 16 名）、非常勤職員 2 名となる。調査第一課整理棟撤去。
2009	21. 4. 1	職員 59 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2010	22. 4. 1	所長森隆茂発令。職員 62 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2011	23. 4. 1	職員 53 名（うち任期付き職員 15 名）、非常勤職員 1 名となる。
2012	24. 4. 1	所長北郷泰道発令。職員 42 名（うち任期付き職員 7 名）、非常勤職員 1 名となる。10 月より東日本大震災復興支援で宮城県へ松本茂を派遣。
2013	25. 4. 1 10.12 ~ 12. 8	所長向井大蔵発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。引き続き東日本大震災復興支援で、宮城県へ和田理啓を派遣。 特別展『みやざき発掘 100 年 - いにしへの「道」と交流』開催
2014	26. 4. 1	所長岩切隆志発令。職員 28 名、非常勤職員 1 名となる。調査第一課と調査第二課を統合し、調査課を置く。東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣（2 年目）。
2015	27. 4. 1	東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣（3 年目）。本年度で派遣終了。 移動展示会「ふるさと発掘！埋文キャラバン」事業でアウトリーチ活動を展開。 旧調査第一課調査研究室撤去。
2016	28. 4. 1	所長谷口武範発令。10 月より非常勤職員 2 名となる。
2017	29. 4. 1	所長菅付和樹発令。職員 29 名、非常勤職員 3 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で加藤徹を熊本市に派遣。
2018	30. 4. 1	所長長峯勝志発令。職員 30 名、非常勤職員 3 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で沖野誠を熊本市に派遣。
2019	31. 4. 1	所長山元高光発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で沖野誠を熊本市に派遣（2 年目）。
2020	令 2. 4. 1	職員 31 名、会計年度任用職員 2 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で沖野誠を益城町に派遣。
2021	3. 4. 1	所長菊村祐司発令。職員 31 名、会計年度任用職員 2 名となる。
2022	4. 4. 1	職員 30 名、会計年度任用職員 3 名となる。
2023	5. 2. 1 4. 1	所長吉本正典発令。 職員 27 名、会計年度任用職員 3 名となる。
2024	6. 4. 1	所長飯田博之発令。職員 26 名、会計年度任用職員 3 名となる。

Ⅲ 令和5年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

令和5年度は以下に記載する事業を実施した。

1 埋蔵文化財記録保存のための発掘調査

(1) 発掘調査

国・県事業に伴う試掘・確認調査及び発掘調査を実施している。本年度は田宮遺跡（延岡市）、東畦原第1遺跡（新富町）の2か所で本調査を実施した。

【発掘調査一覧】

遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構 主な遺物	調査期間 調査面積	調査担当者	調査原因
1 田宮遺跡	延岡市 天下町	縄文時代～ 中世	竪穴建物跡、掘 立柱建物跡、柵 列跡 縄文土器、弥生 土器、土師器、 須恵器、陶磁器	R5.6.20 ～ R5.11.15 (実調査日数88日) 988㎡	守部丘大 川嶋信平	五ヶ瀬川・大瀬川適正分派事業
2 東畦原第1遺跡	新富町 大字新田	縄文・旧石 器時代	礫群 縄文土器 旧石器	R5.9.21 ～ R6.3.15 (実調査日数91日) 3,340.9㎡	小山輝晃 小吹雅史 藤木 聡	新富スマートIC(仮称)建設

(2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な比較検討を要する遺跡の調査を実施するにあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の研究者を招聘している。また、職員を派遣し、位置づけの明確でない遺構や遺物について調査を行うものである。

【調査指導】

日程	場所(遺跡)	所属・氏名	指導内容
1 R5.10.29～31	和田越台場群ほか	日本大学 国際関係学部 教授 浅川道夫氏	遺構の分析視点、遺物の同定等について

【資料調査】

日程	出張先	出張者	目的
令和5年度は実施せず	—	—	—

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗・注記から実測・製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度整理を実施した遺跡は3遺跡で、内訳は県道改良事業1遺跡、急傾斜地崩壊対策事業1遺跡、国道整備事業1遺跡である。なお、本年度は整理作業の終了した3遺跡の発掘調査報告書を刊行した。

【出土遺物等整理対象遺跡一覧】

遺跡名	事業名	事業者
1 陣ノ元遺跡	一般県道学園木花台本郷北方線（山下工区）道路改良工事	県土整備部宮崎土木事務所
2 都城（鶴丸城）跡	城山西側地区急傾斜地崩壊対策工事	県土整備部都城土木事務所
3 樋口遺跡	国道218号五ヶ瀬高千穂道路（室野工区）整備事業	国土交通省延岡河川国道事務所

【発掘調査報告書刊行一覧】

No.	報告書名	副書名	執筆・編集者
1 267	樋口遺跡	国道218号五ヶ瀬高千穂道路（室野工区）整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	留野 優兵
2 268	都城（鶴丸城）跡	城山西側地区急傾斜地崩壊対策工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	小吹 雅史
3 269	陣ノ元遺跡	一般県道学園木花台北郷北方線（山下工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	石塚 啓祐 江藤 建輔

（4）近代宮崎の出発点 西南戦争関連遺跡調査・活用事業（文化庁補助事業）

令和5年度から3か年事業で本県の西南戦争（明治10年、1877年）関連遺跡について所在地や現況の把握と、国史跡指定に必要なデータ取得を目的とする確認調査を実施している。

また、市町村教育委員会・学校・地域住民との連携により関連遺跡の保存・継承を図るため、遺跡の所在する市町村での展示会や講座を計画する等、教育普及活動も行っている。

令和5年度は日之影町教育委員会の協力を受けて、成果展示会「日之影の西南戦争～決戦！！大台場～」(日之影町立図書館7月25日～9月24日)を開催した。

①西南戦争関連遺跡の悉皆調査

令和5年度は、墓・慰霊碑等101基、その他（建物等）3か所の悉皆調査を行った。

【悉皆調査一覧（墓・慰霊碑等）】

市町村名	名称	基数	調査担当者
1 高千穂町	有馬武二墓	1	
2 木城町	招魂碑	1	
3 新富町	招魂碑	1	
4 宮崎市	丁丑戦死之墓、富永亀太墓、青山尚邸之墓、壹岐左平太之墓、伊東荘一郎之墓、小牧秀發之墓、坂本俊藏之墓、中馬重信之墓、長友安貞之墓、野村正道墓、牧野田直内遺髪之墓、三島貢遺髪之墓、村田正宜墓、内田正武墓、河井田正福墓、右田文吉墓、調所千太郎墓、萩原直一郎之墓、吉原虎次之墓、池上市助墓、神崎良泰之墓、垂野信親之墓	22	堀田孝博 谷口 至 上野哲矢
5 日南市	飢肥隊墓地、正八位伊東直記之墓	58	
6 高原町	招魂碑	1	
7 都城市	都城殉難之碑、都城郷招魂塚、高野安樹招魂塚、招魂碑、明治丁丑之役従軍者記念碑、招魂碑、招魂碑、招魂塚、招魂塚、招魂墓	10	
8 三股町	招魂塚、西南役従軍碑、西南戦争一番隊出兵者の灯籠、無名戦士の墓、鍋ふさぎの墓	7	

【悉皆調査一覧（その他）】

市町村名	名称	箇所数	調査担当者
1 宮崎市	帝釈寺	1	堀田孝博
2 日南市	振徳堂	1	谷口 至 上野哲矢
3 三股町	薩軍本営跡	1	

②西南戦争関連遺跡の確認調査

令和5年度は、以下の台場等の確認調査を実施した。

【確認調査一覧】

遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	調査期間	調査面積	調査担当者
1 笹尾台場群 5・8・11・13・15号	日向市美々津町	近代	台場	R5.9.19 ～R6.3.13 (実調査日数21日)	14.3㎡	堀田孝博 谷口 至 上野哲矢

③西南戦争関連遺跡の測量調査

令和5年度は、以下の台場等の測量調査を実施した。

【測量調査一覧】

遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	調査期間	調査面積	調査担当者
1 大楠台場群 2号	日之影町岩井川	近代	-	R5.5.23 ～R5.6.7 (実調査日数5日)	-	堀田孝博 谷口 至 上野哲矢
2 笹尾台場群 1・2・3・4・6号	日向市美々津町	近代	-	R6.1.23 ～R6.2.28 (実調査日数6日)	-	

(5) 保存処理

普及資料課及び調査課では、出土した金属製品や木製品について保存処理を行っている。令和5年度は2遺跡の鉄器116点の処理を行った。

遺跡名	主な器種	保存処理
大楠台場群、笹尾台場群	葉莖、銃弾、銭貨等	土落とし・仮接合まで実施

(6) 収蔵整理

①収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。令和5年度は、登録を完了した遺物と登録待機中の遺物を併せたコンテナ総数が7,250箱となった。

②収蔵庫（本館）

新収蔵庫には主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。令和5年度はコンテナ203箱を搬入した。また、東九州自動車道関連の調査で出土した礫の整理を行い37箱の圧縮となった。よって、本館の収蔵量はコンテナ15,072箱となった。

③登録作業

分館における令和5年度の実績は、6遺跡、コンテナ54箱である。登録累計301遺跡、登録済みコンテナ6,709箱となった。本館における同年度の実績は、3遺跡、コンテナ203箱であり、登録累計118遺跡、コンテナ4,159箱となった。よって、令和5年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、419遺跡、コンテナ10,868箱である。

④図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。令和5年度は1,506冊の受け入れがあり、合計収蔵数は87,454冊になる。図書管理システムによる図書資料の登録と、バーコードによる貸出・返却管理を行っている。

2 教育普及活動

令和5年度の教育普及事業は、移動展示会「ふるさとの遺跡再発見」（文化庁補助事業）、埋文講座（年5回）、遺跡発掘成果展2023「再発見！1990年代調査の遺跡～県北編～」、施設公開、分館展示のほか、出前講座等のアウトリーチ活動を実施した。令和5年度の本館入館者は6,192名であった。

(1) 移動展示会「ふるさとの遺跡再発見」(文化庁補助事業)

埋蔵文化財センターが開発に先立って行った発掘調査の成果を地域に還元するため、地元から出土した遺物を用いて、県内の各地域で移動展示会を行っている。令和5年度は3会場で実施し、遺物の展示のほか体験講座やふるさとの遺跡学習会、会場ごとのリーフレット作成などを通して、地元の歴史や文化財に親しむ機会を提供している。

① 名称：移動展示会『ふるさとの遺跡再発見』

② 主催：宮崎県埋蔵文化財センター

③ 共催：高原町、高原町教育委員会、木城町、木城町教育委員会、西都市教育委員会

④ 会場・会期

・高原会場

会場：高原町役場

会期：令和5年7月21日(金)～8月10日(木)(展示日数21日間)

・木城会場

会場：木城町立みどりの杜木城学園

会期：令和5年10月24日(火)～12月7日(木)(展示日数32日間)

・西都会場

会場：西都市歴史民俗資料館

会期：令和6年1月27日(土)～3月3日(日)(展示日数30日間)

⑤ 関連行事

○体験講座

各会場で体験講座(石器レプリカ製作、土器文様拓本体験、土器パズル)、展示資料解説等を行った。

・高原会場 令和5年7月30日(日) ①10:00～12:00 ②13:00～15:00

・木城会場 令和5年11月11日(土) ①10:00～12:00 ②13:00～15:00

・西都会場 令和6年2月4日(日) ①10:00～12:00 ②13:00～15:00

○ふるさとの遺跡学習会

移動展示会を行った地域の学校にて、近隣の遺跡から出土した遺物の展示・解説、石器レプリカ作り等の体験活動、発掘現場とのオンライン中継等を行い、ふるさとの歴史について学ぶ機会を提供した。

令和5年7月18日(火) 木城町立みどりの杜木城学園 小学校6年生

令和5年7月21日(金) 小林市立西小林中学校 全校生徒

令和5年7月23日(日) 高原地区小中学校 家庭教育学級

令和5年8月1日(火) 高原町立高原小学校 小学6年生

令和6年3月7日(木) 西都市立妻中学校 中学1年生

令和6年3月12日(火) 高鍋町立高鍋西小学校 小学5年生

⑥ 観覧者数

3会場合計 展示日数 83日

総観覧者数:2,636名(体験講座総参加者数を含む)

体験講座総参加者数:230名 ふるさとの遺跡学習会総参加者:462名

・高原会場 展示期間21日間 総観覧者数:692名、体験講座参加者:63名
ふるさとの遺跡学習会参加者:144名

・木城会場 展示期間32日間 総観覧者数:1,562名、体験講座参加者:131名
ふるさとの遺跡学習会参加者:55名

・西都会場 展示期間30日間 総観覧者数:152名、体験講座参加者:36名
ふるさとの遺跡学習会参加者:263名



展示会場（高原会場）



展示会場（木城会場）



展示会場（西都会場）

(2) 埋文講座

近年発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告講座及び教科書と関連させたジュニア向け講座を年5回（5・6・8・12・2月）分館研修室にて実施した。また、参加者を増やす取り組みとして、早期の広報活動やわかりやすい資料の作成等に取り組み、147名の参加者があった。

	開催日	講演名	講師	参加者
1	第1回 R5.5.21	「霧島を望む台地に生きた人々の暮らし 上平遺跡（都城市山之口町）」	県文化財課 吉行 真人氏	36名
2	第2回 R5.6.18	ジュニア向け埋文講座 『教科書から紐解く「むかしの道具たち」』	宮崎県埋蔵文化財センター 小山 輝晃	11名
3	第3回 R5.8.6	ジュニア向け埋文講座 「探究！まいぶん ～自由研究のヒントをみつけよう～」	宮崎県埋蔵文化財センター 佐土瀬 英嗣	10名
4	第4回 R5.12.17	「清武川をのぞむ古代の暮らし」 陣ノ元遺跡①（宮崎市）	宮崎県埋蔵文化財センター 江藤 建輔	40名
5	第5回 R6.2.18	「清武川と共に生きた弥生ムラ」 陣ノ元遺跡②（宮崎市）	宮崎県埋蔵文化財センター 石塚 啓祐	50名

(3) 埋文センター施設公開・体験講座

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財保護啓発の目的で「施設公開」を開催している。本年度は、文化財保護強調週間中の11月5日（日）に「埋文センターで考古学体験」と題して分館において開催した。

【施設公開「埋文センターで考古学体験」】

	開催日	開催場所	内容	参加者
1	R5.11.5	埋蔵文化財センター分館	バックヤード見学、土器復元体験、土器拓本体験、発掘疑似体験、石器レプリカ製作、ドングリつぶし体験、石斧体験等	508名



発掘疑似体験



バックヤード見学



土器復元体験・石器レプリカ製作等

(4) 遺跡発掘成果展 2023・埋文最新情報

埋蔵文化財センターが1990年代に発掘調査した遺跡の資料を展示する遺跡発掘成果展2023「再発見！1990年代調査の遺跡～県北編～」を県立図書館2階特別展示室で開催した。また、展示期間中に成果展関連講座（ギャラリートーク）及び埋文最新情報を実施した。

【遺跡発掘成果展 2023・関連講座】

	開催期間	開催場所	展示遺跡・講座名	来場者
1	R5.8.18 ～R5.9.3	県立図書館2階 特別展示室	広木野遺跡、神殿遺跡、南平第3遺跡、鶴野内中水流遺跡、布平遺跡、古城遺跡、 五ヶ村遺跡、林遺跡、枝遺跡、門川南町遺跡、早日渡遺跡、矢野原遺跡、蔵田遺跡	702名
2	R5.8.20	県立図書館2階 特別展示室	ギャラリートーク：再発見！1990年代調査の遺跡 展示解説	10名
3	R5.8.27	県立図書館2階 特別展示室	ギャラリートーク：再発見！1990年代調査の遺跡 展示解説	25名

【埋文最新情報】

	開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
1	R5.8.27	県立図書館2階 視聴覚室	樋口遺跡、都城跡、陣ノ元遺跡	25名

(5) 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターがこれまでに発掘調査を行った遺跡について、遺跡ごとに出土遺物を紹介するテーマ展示を年4回行った。埋文講座や遺跡発掘成果展等の事業との連携を図って構成した。

(6) 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物等を各地域で展示し、発掘の成果を公開している。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介も行っている。

	開催期間	名称	場所	内容	観覧者
1	R5.7.25～ R5.9.24	令和5年度西南戦争関連遺跡調査・活用事業 成果展示会 日之影の西南戦争～決戦！！大台場～	日之影町立図書館	遺物展示	1,366名
2	R5.10.15	埋蔵文化財センター事業紹介 「埋蔵文化財センターってなあに？」	イオンモール宮崎	県埋蔵文化財センターの 紹介・体験講座	125名
3	R5.11.1	全健緑陽会総会	ニューウェルシティ	遺構・遺物の説明・見学	86名
4	R5.11.17	宮崎県中学校社会科研究大会 (九州大会)	宮崎市民プラザ	遺構・遺物の説明・見学	217名
5	R5.11.30	小学校社会科研究部会	延岡市立東小学校	遺構・遺物の説明・見学	80名
6	R5.12.2 12.3	門川町の遺跡展	門川町立中央 公民館	遺構・遺物の説明・見学	50名
7	R6.1.27 1.28	広瀬西小校区芸能文化まつり	佐土原総合文化 センター	県埋蔵文化財センターの 紹介・遺物展示・体験 講座	831名

(7) 出前講座

生涯学習団体や学校等からの依頼に応じて、埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて行う出張講座を実施している。それぞれの地域の遺跡や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行った。令和5年度は23件※（総参加者数1,438名）の講座を実施した。

※ふるさとの遺跡学習会（6件）及び西南戦争関連遺跡調査・活用事業（1件）を含めた件数

開催日	学校名・機関名	対象	内容	参加者
1 R5.5.9	川南町立通山小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	36名
2 R5.6.5	高鍋町立高鍋西小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	87名
3 R5.6.13	美郷町立美郷南学園 6年生・7年生	小・中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	19名
4 R5.6.15	門川町立草川小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	38名
5 R5.6.19	高鍋町立高鍋西小学校 小学6年生	小学生	社会科学習との関連講座	87名
6 R5.6.22	都城市立木之川内小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	9名
7 R5.7.18	木城町立みどりの杜木城学園小学6年 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 発掘現場とのオンライン中継	55名
8 R5.7.21	小林市立西小林中学校 全校生徒 (ふるさとの遺跡学習会)	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 発掘現場とのオンライン中継	71名
9 R5.7.23	高原地区小中学校 家庭教育学級 (ふるさとの遺跡学習会)	小・中学生 保護者	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	22名
10 R5.7.29	日向市立図書館	小・中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	21名
11 R5.8.1	高原町立高原小学校 小学6年生 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 移動展示会場とのオンライン中継	51名
12 R5.8.4	宮崎市立生目小学校	教職員	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	15名
13 R5.8.17	国富町立図書館	一般	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	17名
14 R5.8.22	高千穂中央公民館	小・中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	14名
15 R5.9.12	日之影町立日之影中学校 中学2年生 (西南戦争関連遺跡調査・活用事業)	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 西南戦争関連遺跡とのオンライン中継	26名
16 R5.12.9	広瀬西小校区地域づくり推進委員会	一般	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 西南戦争関連遺跡の解説 宮崎の地質と石器石材	18名
17 R5.12.15	宮崎市立大塚中学校 中学1年生	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	231名
18 R6.1.28	広瀬西小校区芸能文化まつり	小学生 一般	体験活動(石器レプリカ作り)	57名
19 R6.2.22	宮崎市立広瀬中学校 中学3年生	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	150名
20 R6.3.7	西都市立妻中学校 (ふるさとの遺跡学習会)	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	180名
21 R6.3.11	美郷町立美郷北義務教育学校	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	31名
22 R6.3.12	高鍋町立高鍋西小学校 小学5年生 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動(石器レプリカ作り)	83名
23 R6.3.19	宮崎市立田野小学校 小学3年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動(石器レプリカ作り等)	120名

(8) 現地説明会、インターンシップ・職場体験の受け入れ

発掘調査中の遺跡を県民の方に見学していただく現地説明会を実施した。

【現地説明会】

	開催日	遺跡名	開催地	内容	対象	参加者
1	R5.11.12	田宮遺跡	延岡市	遺跡の概要、遺構・遺物の説明	一般	62名

【インターンシップ】

	期間	場所	内容	対象	参加者
1	R5.8.21 ～R5.8.25	埋蔵文化財センター 本館・分館	埋蔵文化財センターの業務体験 出前講座補助業務、発掘調査現場見学、 展示作業補助業務、置県140年関連業務	大学生	3名

【職場体験】

	開催日	場所	内容	対象	参加者
1	R5.8.1, 3, 4	田宮遺跡(延岡市)	発掘調査の業務体験	高校生	1名

(9) 見学・研修等で分館を訪れた団体

	実施日	団体名	内容	人数
1	R5.4.9	お茶の会	研修・展示見学	4名
2	R5.4.22	宮崎地質研究会	研修	8名
3	R5.5.9	西都市立茶臼原小学校	展示見学・展示物解説	14名
4	R5.5.10	小林市立小林小学校	展示見学・展示物解説	106名
5	R5.5.19	宮崎地質研究会	研修	12名
6	R5.5.26	日向市立平岩小中学校	展示見学・展示物解説	20名
7	R5.6.2	綾町立綾中学校	展示見学	58名
8	R5.6.6	高原町役場	展示見学・整理作業研修	7名
9	R5.6.17	宮崎地質研究会	研修	9名
10	R5.7.14	宮崎県立明星視覚支援学校	体験講座	10名
11	R5.7.27	くるみ保育園	展示見学	52名
12	R5.8.16	のぞみ保育園	展示見学・体験講座	17名
13	R5.9.23	宮崎地質研究会	研修	10名
14	R5.9.29	埋蔵文化財担当者専門職員研修	研修	28名
15	R5.10.2	木城町婦人学級	展示見学・体験講座	14名
16	R5.10.20	都城市立西小学校	展示物見学	17名
17	R5.10.20	都城市立庄内小学校	展示見学・展示物解説	50名
18	R5.10.28	宮崎地質研究会	研修	12名
19	R5.11.6	宮崎市立鏡洲小学校	展示見学・展示物解説	26名
20	R5.11.8	宮崎市立生目台西小学校	展示見学・体験講座	34名
21	R5.11.8	宮崎市立佐土原小学校	展示見学	49名
22	R5.11.10	高鍋町立高鍋東小学校	展示見学・展示物解説	40名

23	R5.11.15	小林市立西小林小学校	展示見学・展示物解説	32名
24	R5.11.17	西都市立三財小中学校	展示見学・展示物解説	19名
25	R5.11.29	宮崎大学附属小学校	展示見学・展示物解説	102名
26	R5.12.8	川南町立川南小学校 家庭教育学級	展示物解説・体験講座	8名
27	R5.12.16	宮崎地質研究会	研修	10名
28	R6.1.13	宮崎地質研究会	研修	12名
29	R6.2.24	宮崎地質研究会	研修	10名
30	R6.3.2	九州弥生研究ネットワーク	研修及び資料調査	24名
31	R6.3.23	西都原考古博物館・東京大学・山形大学	研修及び資料調査	4名

(10) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の閲覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可申請があり、令和5年度は館内利用14件、館外貸出17件、掲載許可14件であった。

【館内利用】

	利用日	遺跡名・利用資料名	利用目的
1	R5.6.6	塚原遺跡C地区〔古墳墳丘および主体部出土赤色顔料〕、山田遺跡〔主体部出土赤色顔料〕、 朽木地下式横穴墓群、築池遺跡、上平遺跡〔玄室出土赤色顔料〕	資料調査
2	R5.7.26 ～R5.7.27	大貫貝塚〔土器・石器・動物遺存体〕、蔵田遺跡〔土器〕、 岩土原遺跡〔土器、石器〕	資料調査
3	R5.7.28 ～R5.7.29	矢野原遺跡、音明寺第2遺跡、高野原遺跡第5地点、山田遺跡、 山ノ口原遺跡〔石器〕	資料調査
4	R5.8.25	杉木原遺跡、永ノ原遺跡、竹ノ内遺跡、市位遺跡、下那珂遺跡〔石器〕	資料調査
5	R5.9.25 ～R5.9.26	大貫貝塚〔土器・石器・動物遺存体〕、岩土原遺跡〔土器、石器〕	資料調査
6	R5.10.3	山崎上ノ原第1遺跡〔報告書〕	資料調査
7	R5.11.6	板平遺跡〔石器〕	資料調査
8	R5.12.4	鶴野内中水流遺跡、南平第3遺跡、牧の原第2遺跡、右葛ヶ迫遺跡、町屋敷遺跡、志戸平遺跡（3 次）、坂ノ下遺跡、古城遺跡、五ヶ村遺跡、西畦原第1遺跡、下那珂遺跡、下大五郎遺跡、野門遺跡、 平田遺跡D地点、諸麦遺跡、宮ノ東遺跡、尾花A遺跡Ⅱ、働女木遺跡、湯之宮遺跡〔土器〕	資料調査
9	R5.12.5 ～R5.12.7	音明寺第2遺跡、野首第2遺跡、前ノ田村上第2遺跡、南学原第2遺跡、小並第1遺跡、尾立第2遺跡、 尾花A遺跡Ⅰ、牧内第1遺跡、黒仁田遺跡、朝草原遺跡、唐木戸第4遺跡〔石器〕	資料調査
10	R5.12.22 ～R5.12.23	前原南遺跡、西下本庄遺跡、宮田遺跡、宇都第3遺跡、余り田遺跡、塩見城跡、平峰遺跡、 平畑遺跡、市位遺跡、下那珂貝塚、尾花A遺跡、倉岡第2遺跡、枯木ヶ迫遺跡、荒迫遺跡、 平田遺跡、上牧第2遺跡、竹淵C遺跡、竹ノ内遺跡、平田遺跡D地点・E地点、宮ノ東遺跡、 石用遺跡、大島畠田遺跡、梅北針谷遺跡、木脇遺跡、大久保第1遺跡、中床丸遺跡、山之後遺跡、 塚原遺跡Ⅱ、大浦遺跡、山崎上ノ原第2遺跡〔土製品〕	資料調査
11	R6.1.28	塚原遺跡〔土器〕	資料調査

12	R6.2.10 ～R6.2.11	山崎上ノ原第1遺跡 [土師器、須恵器、石器]			資料調査
13	R6.3.2	五ヶ村遺跡、南平第3遺跡、鶴野内中水流遺跡、八幡第2遺跡、赤坂遺跡、鬼付女西遺跡 B 地区、宮ノ東遺跡、下那珂遺跡、町屋敷遺跡、前原北遺跡、堂地東遺跡、右葛ヶ迫遺跡、学頭遺跡、下大五郎遺跡、俵石第2遺跡、尾花 A 遺跡、向原第1遺跡、別府町遺跡、働女木遺跡、市位遺跡、牧の原第2遺跡、平田遺跡 D 地点、本地原遺跡 [土器]、下那珂遺跡、宮ノ東遺跡、堂地東遺跡、保木下遺跡 [石器]			資料調査
14	R6.3.23	平底第2遺跡 [土器]			資料調査

【館外貸出】

	期 間	貸出資料名	数 量	目 的	貸出機関名
1	R5.4.1 ～R6.3.31	野添遺跡 [ササゲ属種子炭化物・クリ種子炭化物]	30	文化交流展示「海の道、アジアの路」(平常展)に展示	九州国立博物館
2	R5.4.10 ～R5.4.11	学習キット [弥生]	43	大学の講義で使用	南九州大学
3	R5.4.17 ～R5.4.18	学習キット [旧石器]	75	大学の講義で使用	南九州大学
4	R5.5.8 ～R5.5.9	学習キット [縄文]	100	大学の講義で使用	南九州大学
5	R5.5.10 ～R5.12.7	八幡遺跡 [陶磁器]	7	令和5年度企画展「モノからわかる江戸時代～人々のくらしと産業～」において展示するため	都城市教育委員会
6	R5.5.29 ～R5.5.30	学習キット [弥生]	43	大学の講義で使用	南九州大学
7	R5.6.9 ～R5.6.16	東ノ原1号地下式横穴墓 [須恵器]、祇園原地区遺跡 [須恵器]、迫内遺跡 [須恵器]、山崎下ノ原第1遺跡 [須恵器]	20	文化財関連業務に使用するため	県文化財課
8	R5.5.29 ～R5.5.30	学習キット [古墳時代]	21	大学の講義で使用	南九州大学
9	R5.6.27 ～R5.9.13	塩見城跡 [陶磁器、土製品、石製品、鉄製品、木製品]、本城跡 [土師器、陶器、銅製品]、本城原遺跡 [陶器]、宮ノ東遺跡 [陶器]、迫内遺跡 [鋳物]、曾井第2遺跡 [陶器]、銀座第2遺跡 [磁器]、上ノ原遺跡 [陶器]、中山遺跡 [銅製品、金属製品、鉄製品]、坪谷城跡 [刀装具]、飫肥城下町遺跡 [ガラス製品]	42	特別展 置県 140 年記念Ⅱ「大地を刻む～変化する日向の城～」において展示するため	西都原考古博物館
10	R5.6.28 ～R5.7.5	学習キット [縄文、弥生、古墳]	16	授業で活用	日向学院
11	R5.7.1	学習キット [旧石器、縄文、弥生、古墳]	239	教職員の研修会で使用	県埋蔵文化財センター職員
12	R5.7.7 ～R5.7.9	宮ノ東遺跡 [土器]、林遺跡Ⅱ [土器]、高鍋城三ノ丸跡 [土器]、尾花A遺跡Ⅱ [土器]、赤坂遺跡 [須恵器]	7	樺番城窯製品との比較検討のため	県埋蔵文化財センター職員

13	R5.9.21 ～R5.12.1	右葛ヶ迫遺跡 [土器]、山崎上ノ原第2遺跡 [土製品]、山崎上ノ原第2遺跡Ⅱ [土製品]、飫肥城下町遺跡 [磁器、自然遺物]、唐人町遺跡 [鉄製品]	38	特別展「黒潮博物館～日向灘から琉球列島の生きものと海の恵み～」での展示のため	県総合博物館
14	R5.10.5 ～R5.10.6	学習キット [縄文、弥生]	12	授業で活用	田野中学校
15	R5.10.10 ～R6.1.15	小迫遺跡 [土器]、天神河内遺跡 [土器]	10	上野原縄文の森第68回企画展「人のあゆみとジオストーリー ～南九州の火山と生きた人々～ 日本ジオパークエリア拡大認定記念」における展示のため	鹿児島県文化振興財団 上野原縄文の森
16	R5.11.6 ～R5.11.8	山田遺跡 [石器]	280	旧石器石材の蛍光X線分析を実施するため	県総合博物館
17	R6.1.12 ～R6.3.13	学頭遺跡 [玉類]、竹ノ内遺跡 [玉類]、野首第2遺跡 [玉類]	16	歴史常設展示室におけるトピック展示での展示および関係印刷物等への掲載	県総合博物館

【刊行物等掲載（写真等資料提供）】

申請日	資料名	掲載刊行物等	依頼者
1 R5.4.18	飫肥城下町遺跡 [遺跡遠景、S125出土の遺物、飫肥城下全景、調査地と飫肥城下の町並み、完掘時の俯瞰写真、調査時の遺構の状況、中世の出土陶磁器一式、江戸時代の出土陶磁器一式、江戸時代の出土瓦一式]	2023年度九州考古学会宮崎大会のプレゼン資料への掲載	個人
2 R5.4.24	図録『みやざき発掘100年』2013 [VI - ⑩区画内の掘立柱建物跡 (川南町前ノ田村上第1遺跡)]、前ノ田村上第1遺跡 [2区南部、3・4区北部完掘状況]、塩見城跡 [曲輪A群、堀切写真、井戸と曲輪、道路状遺構と掘立柱建物跡]、図録『みやざき発掘100年』2013 [VI - ⑦龍首水注類似資料]、塩見城跡 [土製聖人像]、図録『みやざき発掘100年』2013 [VI - ⑳茶の湯関連遺物、VI - ㉑蔵骨器集合、VI - ㉒備前大甕、VI - ㉓華南緑釉鶴形水注、VI - ㉔墓の副葬品、VI - ㉕備前焼と東播系須恵器、本城跡 [本城跡出土土師器皿]	特別展置県 140年記念Ⅱ「大地を刻む～変化する日向の城～」における広報チラシ・ポスター等への掲載	西都原考古博物館
3 R5.4.27	八幡遺跡 [3号・5号土坑、井戸跡]	令和5年度企画展「モノからわかる江戸時代～人々のくらしと産業～」の展示にて使用	都城市教育委員会
4 R5.5.18	小迫遺跡 [小迫遺跡出土縄文土器深鉢底部外面の白色物質]	広報都城 令和5年6月号「ぼんちくんと歴史探訪」への掲載	都城市教育委員会
5 R5.5.25	図録『みやざき発掘100年』2013 [VI - ⑧華南緑釉鶴形水注]、塩見城跡 [水の手曲輪 (第V期面) と曲輪A群 (西から)、SS1石積み壁面と1号掘との関係 (東から)、方形の石敷 (畳) 部をもつ井戸 (SF1-C期)]	特別展置県140年記念Ⅱ「大地を刻む～変化する日向の城～」における広報チラシ・図録・展示解説バナー等への掲載	西都原考古博物館
6 R5.6.24	筆無遺跡 [弥生土器甕]、竹ノ内遺跡 [縄文土器浅鉢]、浦田遺跡 [弥生土器壺]、堂地東遺跡 [弥生土器甕]、熊野原遺跡 [弥生土器壺、弥生土器高坏]、前原北遺跡 [弥生土器壺、弥生土器甕]	書籍への掲載 書名『日本における覆い焼きの成立と展開 (仮題)』	個人

7	R5.7.5	飢肥城下町遺跡 [S125出土の遺物、S125の検出状況、S125出土遺物の近影]	特別展「黒潮博物館～日向灘から琉球列島の生き物と海の恵み～」での特別展関連印刷物等への掲載	県総合博物館
8	R5.8.30	中尾遺跡 [小溝状遺構群・土層断面写真]	第2回日本災害・防災考古学会研究会予稿集への掲載	個人
9	R5.9.5	小迫遺跡 [遺跡の立地 (1)、SA9遺物出土状況 (北東より)、SA22遺物出土状況 (1) 南東より、SA22遺物出土状況 (2) 116・117、SA33遺物出土状況 (南東より)、縄文時代中～後期の遺構分布図、宮之迫式土器 (4)、近景 (北から)、IV層1号配石、Ⅲ区IV層遺物出土状況、1号配石遺構実測図]	上野原縄文の森第68回企画展「人のあゆみとジオストーリー～南九州の火山と生きた人々～日本ジオパークエリア拡大認定記念」における展示・展示パネル等の作成及び広報誌等への掲載	鹿児島県文化振興財団 上野原縄文の森
10	R5.10.5	中尾遺跡 [桜島文明テフラの小溝状遺構群検出状況、桜島文明テフラを除去した状態、小溝状遺構の土層断面]	『列島の人々は火山災害にどのように向き合ってきたのか～火山災害考古学から今を考える～』への掲載	株式会社 山川出版社
11	R5.11.25	尾花A遺跡 [刻目突帯文縄文土器]	『対馬暖流をめぐる先史時代の土器文化』の本文への掲載	株式会社 雄山閣
12	R6.2.18	上の原第2遺跡 [8～12号・14号竪穴住居跡]、塚原遺跡 [環濠集落の溝状遺構SE4完掘状況、SE5出土木製品木杭]	『地方史みやぎ』第69号への掲載	宮崎県地方史 研究連絡協議会
13	R6.2.16	西下本庄遺跡 [調査区東側全景、調査区西側全景 (2)、調査区西側全景 (3)、1号石組、SE10完掘状況、SC14出土遺物、SE5出土遺物、SE1・9出土遺物、SE10出土遺物、柱穴状遺構出土遺物、その他の出土遺物]、木脇遺跡 [遺跡遠景、29号竪穴住居跡、29号竪穴住居跡竈、土坑墓、SC6出土遺物]	「くにとみの歴史講座」のプレゼン資料への掲載	県総合博物館
14	R6.3.21	下耳切第3遺跡 [SC140出土深鉢]	上野原縄文の森常設展示室における展示・展示パネル等の作成及び展示図録・広報誌等掲載・作成の為	鹿児島県文化振興財団 上野原縄文の森

(11) 職員派遣

市町村の教育委員会等に埋蔵文化財等の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

	派遣期日	依頼者	内容	派遣職員
1	R5.5.9 R5.6.1,7,21, 22,27	国富町教育委員会	本庄地下式横穴墓地中レーダー探査 本庄地下式横穴墓発掘調査指導	東 憲章 他 東 憲章・留野 優兵
2	R5.4.6,19 R5.5.9,15,16 R5.6.16,23 R5.7.27 R6.2.2,3 R6.3.15,18	延岡市教育委員会	延岡市史編纂関連用務	谷口 武範 堀田 孝博 藤木 聡
3	R5.5.16	宮崎市教育委員会	宮崎市労働災害検証委員会	東 憲章
4	R5.5.19	宮崎大学地域資源創成学部	講演講師	吉本 正典
5	R5.9.25	宮崎県高等学校教育研究会地理歴史科公民科研究会地理部会	南部地区研修会講師	松田 清孝
6	R5.10.16	川南町教育委員会	後牟田遺跡検討会	藤木 聡

7	R5.10.27	宮崎県高等学校教育研究会地理 歴史科公民科研究会	地理研究大会講師	松田 清孝
8	R5.11.1	全緑陽会	講演講師	吉本 正典
9	R5.11.15	都城市教育委員会	菓子野地下式横穴墓地中レーダー探査	東 憲章
10	R5.11.16	高鍋町教育委員会	高鍋城跡発掘調査指導	東 憲章・留野 優兵
11	R5.11.24	日向市教育委員会	市内遺跡調査指導	留野 優兵
12	R5.12.6	都城市教育委員会	菓子野地下式横穴墓地中レーダー探査	東 憲章
13	R5.12.26	都城市教育委員会	都城歴史資料館運営委員会	谷口 武範
14	R6.2.26	都城市教育委員会	菓子野地下式横穴墓地中レーダー探査	東 憲章

(12) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修会を実施している。令和5年度は、黒曜石やガラス質安山岩の同定・分類に係る基本的な知識や最新の研究成果等について共有化を図り、同定作業に必要な標準サンプルを各自作成した。

実施日	場 所	講 師	内 容	参加者数
1 R5.9.29	埋蔵文化財センター分館	宮崎県総合博物館 副館長 赤崎 広志氏	「黒曜石の産地推定～分類手法の検討と成果～」	28名

(13) 広報出版物

埋蔵文化財センターの「年間行事案内」及び「埋文通信」の発行を行うとともに移動展示会、施設公開等についてもポスターやチラシ、資料等の作成を行った。

発行年・月	広報出版物
1 R5.8	『宮崎県埋蔵文化財センター 年報』第27号 令和4(2022)年度
2 R6.3	令和6年度 宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」
3 R6.3	宮崎県埋蔵文化財センター 通信「ひむか」26号

(14) 研究紀要

職員の研究活動をWEB上で公開している。令和5年度は7本の報告を掲載した。

宮崎県埋蔵文化財センター研究紀要第9集

【論文・研究ノート】

延岡市大貫貝塚の宮崎大学調査資料について	乗畑 光博・谷口 武範
地下式横穴墓調査の効率化と安全性の確保について	
～国富町本庄で発見された地下式横穴墓の調査～	東 憲章・留野 優兵
古代・中世・近世の日向における火打石の変遷とその特質	藤木 聡
江田山崎地区試掘調査結果の概要 - 宮崎平野砂丘列間低地の土地利用 -	吉本 正典

【資料集成・紹介】

宮ノ前第2遺跡（高千穂町）出土の弥生時代から古墳時代の玉製品	守部 丘大
宮崎県内出土の底部貫通孔土器集成	石塚 啓祐
高鍋藩領での石材利用に関する基礎的調査（1）	
～木城町一ノ谷の踏査と高鍋町高鍋城跡岩坂門石垣の計測～	留野 優兵

(15) ホームページ・SNS

施設公開、埋蔵文化財講座、成果展、出前講座等の教育普及事業の広報を、ホームページやSNSを通じて行った。また、整理作業員や発掘作業員等の会計年度任用職員の募集や資料の貸出、発掘調査の状況等を発信し、ホームページやSNSの活用を推進した。

(16) 置県140年記念イベント

宮崎県は明治6（1873）年に設置されたが（初期宮崎県）、同9（1876）年の鹿児島県への併合、同10（1877）年の西南戦争などを経て、同16（1883）年に現在の県域をもって再置された。令和5（2023）年はその再置から140年の節目にあたることから、「置県140年記念イベント」として県庁各部署が様々な取組を行った。当センターは「あるき、み、ふれる置県140年」と題した一連のイベントとして、以下のまちあるき、講演会を実施した。

実施日	場 所	講 師	内 容	参加者数
1 R5.10.21	県庁周辺	宮崎県埋蔵文化財センター 堀田孝博	まちあるき① 「宮崎県庁建設余話」	17名
2 R5.11.18	県庁周辺	宮崎県埋蔵文化財センター 堀田孝博	まちあるき② 「西南戦争と宮崎市街地」	19名
3 R5.12.2	県庁防災庁舎	志学館大学 教授 鹿児島大学 名誉教授 原口泉氏	講演会 「鹿児島から見た宮崎県の再置」	111名

3 会議・職員研修

(1) 各種会議等への参加

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会などの各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。令和5年度は、ほとんどの会議が対面開催となり、オンラインを併用するものも見られた。

日 程	内 容	開催地	出席者
1 R5.6.2	令和5年度宮崎県博物館等協議会第1回研修会	宮崎県宮崎市	松田清孝・平井祥蔵
2 R5.6.8～9	令和5年全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	鹿児島県鹿児島市	吉本正典
3 R5.7.21	古代歴史文化研究協議会 web 会議	オンライン	東 憲章
4 R5.7.26	令和5年度宮崎県地方史研究連絡協議会研修会	宮崎県宮崎市	吉本 正典
5 R5.8.22～23	令和5年度埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会	福岡県福岡市	藤木 聡
6 R5.9.12～13	古代歴史文化研究協議会 共同研究中間発表会	岡山県岡山市	東 憲章
7 R5.10.2～6	奈良文化財研究所専門職員研修	奈良県奈良市	留野 優兵
8 R5.10.6	令和5年度宮崎県博物館等協議会第2回研修会	宮崎県木城町	佐土瀬 英嗣
9 R5.10.26	令和5年度宮崎県地方史研究連絡協議会研修会	宮崎県木城町	佐土瀬 英嗣
10 R5.12.5～6	令和5年度全国公立埋蔵文化財連絡協議会中四国九州ブロック会議	大分県大分市	和田 理啓
11 R6.1.31～2.2	令和5年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会	和歌山県和歌山市 (オンライン参加)	留野 優兵 谷口 武範・東 憲章・ 和田 理啓・甲斐 貴充・ 堀田 孝博・藤木 聡

12	R6.2.29 ~ 3.1	令和5年度埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会	熊本県熊本市	甲斐 貴充・藤木 聡
13	R6.3.28	古代歴史文化研究協議会 web 会議	オンライン	東 憲章

(2) 共同研究への参加

所外の研究者や機関等が主催する共同研究へ職員が参加するものである。

日程	内容	参加者
令和5年度は該当者なし	—	—

(3) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、以下の各講習会へ参加している。

日程	内容	参加者
1 R5.4.25	救急救命講座 (心肺蘇生法・AED 操作法・応急手当)	吉本 正典・東 憲章・柚木崎 誠一郎・谷口 武範・加塩 美昭・寺原 尚徳・原田 佳奈子・和田 理啓・藤木 聡・小吹 雅史・甲斐 貴充・加藤 真理子・堀田 孝博・谷口 至・松田 清孝・筒井 克彦
2 R5.5.2	足場の組立等の特別教育	小山 輝晃
3 R5.5.9 ~ 10	有機溶剤作業主任者技能講習	留野 優兵
4 R5.5.22	刈り払い機講習	小山 輝晃・川嶋 信平
5 R5.8.17 ~ 18	安全衛生推進者養成講習	筒井 克彦
6 R5.10.11 ~ 13	土留め支保工講習	留野 優兵

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

平成 8 年 3 月 29 日

教育委員会規則第 5 号

改正

平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号
平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号
平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号
平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号
平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号
平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号
平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号
令和 2 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号
令和 5 年 3 月 30 日教育委員会規則第 6 号
令和 6 年 4 月 1 日教育委員会規則第 3 号

宮崎県埋蔵文化財センター管理規則をここに公布する。
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
- (2) 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
- (3) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
- (5) 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
- (6) その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組織)

第 3 条 埋蔵文化財センターに、次の課を置く。

総務課

調査課

普及資料課

(分掌事務)

第 4 条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
- (2) 予算の執行及び決算に関すること。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
- (4) 公印の管守に関すること。
- (5) 施設及び設備の管理に関すること。
- (6) その他他の課の所管に属さない事項に関すること。

調査課

- (1) 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (2) 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (3) 重要遺跡の発掘調査及び保護に関すること。
- (4) 前3号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
- (5) 第1号から第3号までの発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

普及資料課

- (1) 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
- (2) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
- (3) 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸出しに関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

（職及び職務）

第5条 埋蔵文化財センターに、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所 長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 所 長 (2 人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課 長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専任主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする複雑な事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副所長

第2順位 業務担当の副所長

4 第1項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副 参 事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専任主幹	上司の命を受けて、専門知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専任副主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とするその相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副 主 幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専任主査	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とするその専門的業務に従事する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

5 第1項及び前項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、専門主幹及び専門主事を置く。

6 専門主幹は、上司の命を受けて、専門知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。

7 専門主事は、上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。

（その他の職）

第6条 前条に規定する職のほか、必要に応じ、会計年度任用職員を置く。

2 会計年度任用職員は、上司の命を受けて、事務又は技術に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区 分	休 館 日
宮崎県埋蔵文化財センター	1 土曜日及び日曜日 2 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。） 3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで（休日を除く。） 4 特別整理期間（あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。）
宮崎県埋蔵文化財センター 分館	1 月曜日（休日に当たるときを除く。） 2 休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。） 3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで 4 特別整理期間

2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (3) 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。
- (4) 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。
- (5) 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書（別記様式第1号）を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第11条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第31条第1項の規定により文部科学大臣、都道府県教育委員会又は指定都市の教育委員会が指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館
- (3) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校
- (4) 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
- (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で宮崎県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
- (6) その他教育長が適当と認めるもの

2 資料等の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。

3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書（別記様式第2号）を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。

4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。

- (1) 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
- (2) 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。

(3) 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。
(弁償)

第12条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第13条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成8年4月1日から施行する。

(宮崎県総合博物館管理運営規則の一部改正)

2 宮崎県総合博物館管理運営規則(昭和46年宮崎県教育委員会規則第4号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則(平成12年1月20日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成12年1月20日から施行する。

附 則(平成12年3月31日教育委員会規則第8号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成12年12月18日教育委員会規則第21号抄)

(施行期日)

1 この規則は、平成13年1月6日から施行する。

附 則(平成18年3月30日教育委員会規則第9号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月30日教育委員会規則第3号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日教育委員会規則第6号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月27日教育委員会規則第2号)

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(令和2年3月30日教育委員会規則第9号)

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月30日教育委員会規則第6号)

(施行期日)

1 この規則は、令和5年4月1日から施行する。

(用紙に関する経過措置)

2 この規則の施行の際現に存する第1条の規定による改正前の博物館の登録に関する規則及び第4条の規定による改正前の宮崎県埋蔵文化財センター管理規則の規定に定める様式による用紙は、当分の間、所要の事項を適宜補正して使用することができる。

附 則(令和6年4月1日教育委員会規則第3号)

この規則は、公布の日から施工する。

別記

様式第1号

(第10条関係)

様式第2号

(第11条関係)

別記

様式第1号(第10条関係)

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、
次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
利用希望日時			
利用の方法			
撮影の有無			
備 考			

別記

様式第 2 号(第 11 条関係)

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所

申請者 氏 名

電話番号

〔法人にあっては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第 11 条第 3 項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日 から 年 月 日まで		

案内図

宮崎県埋蔵文化財センター

所在地 〒880-0212

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019

TEL 0985-36-1171(代表・総務課)

0985-36-1172(調査課)

FAX 0985-72-0660

ホームページ

<https://www.miyazaki-archive.jp/maibun/>

E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関 :JR 佐土原駅から車で 10 分

宮崎市街地から高鍋町方面宮崎交通バス

御殿下バス停 から徒歩で 8 分



宮崎県埋蔵文化財センター分館

所在地 〒880-0053

宮崎県宮崎市神宮 2 丁目 4-4

TEL 0985-21-1600(普及資料課)

FAX 0985-26-2634

観覧時間 午前 9 時～午後 5 時

(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 年末年始(12 月 28 日～1 月 4 日)

特別整理期間

入館料 無料

E-mail maibun-fukyu@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関 :宮交バス「博物館前」徒歩 4 分

JR「宮崎神宮」徒歩 9 分





宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地
TEL 0985-36-1171・1172 FAX 0985-72-0660
E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp